

は妥当。

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,815	夜間定時制高等学校の学校給食費の補助
合計	1,815	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 夜間課程を置く高等学校における学校給食に関する法律
第3条 夜間課程を置く高等学校の設置者は、当該高等学校において
夜間学校給食が実施されるように努めなければならない。
- ・ 第3次岐阜県教育ビジョン
基本方針3 未来を切り拓くための基礎となる力を育む教育の推進
目標17 健康教育・食育の推進

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	夜間定時制高等学校給食費補助金
補助事業者（団体）	高等学校の夜間定時制課程等に在学する有職生徒 （理由）夜食費の補助であるため、生徒本人が妥当。
補助事業の概要	（目的）勤労青少年の高等学校の夜間定時制課程等への修学を促進し、教育の機会均等を保証する。 （内容）高等学校の夜間定時制課程等に在学する有職生徒を対象として、定時制高等学校夜食費補助事業を行う。
補助率・補助単価等	定額 ・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）1食あたり82円を上限として補助する。 （理由）県学校給食会が定める基本物資（米・牛乳）（米100gに換算）R1単価82円を上限に適用。
補助効果	有職生徒の食費補助として、健全な発達に寄与することが見込まれる。
終期の設定	終期 令和4年度 （理由）終期の定めがないため、事業を点検する。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>勤労青少年教育の重要性を鑑み、夜間学校給食の普及と有職生徒の健全な発育・発達を図るように努め、生活改善等に寄与する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H16)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R4)	達成率
	① 補助人数	—	123人	159人	123人	123人

	H30年度	R元年度	R2年度
補助金交付実績	2,068千円	2,166千円	2,662千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	令和2年度より1食あたりの上限を82円として夜間定時制高等学校9校、在学生徒781人のうち123人を対象に補助を行った。補助対象割合は15.8%であった。
	指標① 目標：178人 実績：123人 達成率：69.1%

令和3	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	学校給食は、設置者である県が実施しなければならないことであり、有職生徒への夜間学校給食費の補助は、修学の支援として必要性が高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）</p>	
(評価) 1	在学生数は、ここ数年減少傾向であり、そのうち有職生徒で補助対象生徒は、全体の約16%である。勤労青少年の健全な発育・発達を図ることに努め、食育の推進に寄与している。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	事業の手引きに従い適正に取り扱われ、令和3年度より押印の手続きを廃止している。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 経済的に修学が困難な生徒が増加傾向にあることや米・牛乳の単価が今後とも上がっていくことが予想されるため、補助金額の見直しが必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 設置者である県は、夜間学校給食を継続するにあたり、補助の継続は必要である。補助金の拡充及び継続について、岐阜県高等学校定時制通信制教育振興会より要望書が提出されている。</p>
